



「虎穴に入らずんば虎子を得ず =自立こそ、生き残る道なし」

(社)島根県建設業協会出雲支部
支部長 中筋豊通

明けましておめでとうございます
本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、「コンクリートから人へ」きつい一発でした。

東西約200キロ、山陰自動車道はいまだ開通してはいません。今年度道路予算が削減され、県内完成が10年遅れ20年代後半になりそうです。これでは整備不十分な一般国道9号に頼るしかありません。

医師不足が深刻な島根では患者を運ぶ大切な道であり、農・水産物を運ぶ道。また、観光立県島根のための都会をつなぐ道でもあります。

「命の道」「活力の道」を未整備のまま、山陰経済の活性化を計っていかねばなりません。現政権は3党連立ゆえ「身内への配慮」ということで迷走が続いていますが、地方へ、中小企業への心配りはないのでしょ

うか。事業仕分けというパフォーマンス、ネットやテレビで中継され、世論の注目を集めましたが、仕分け人の人選、判定基準が曖昧な上、中長期の視点を欠くなど賛否両論です。しかも目標の3兆円には遠く及びませんでした。

鳩山政権は企業を支援し、経済を活性化する手法から、人に直接金を配分し、個人消費から内需拡大を図ろうとしています。

ご存知の様に年末の21日ようやく「決断しない首相」が判断を示しました。

- ① 暫定税率を2010年3月末で廃止。ガソリンなどにかかる税率は現行水準を維持する。
- ② 子ども手当は所得制限を設けず実施。不要ならば自治体に寄付する制度を創設する。
- ③ 環境税について1年以内に結論を出す。
- ④ たばこ税は増税。等々

マニフェストと財源の両面に配慮した折衷案で、指導力を欠き旗印を鮮明に出来ない政権の苦境が眼に見えるようです。

そんな中、2010年度予算案が閣議決定。一般会計 92兆2992億円「社会保障増 借金頼み」「財源不足 将来に不安」「家計重視 借金膨らむ」「ばらまきで、安心得られず」「公共事業費、削減に拍車」新聞の見出しです。政策実行のための一般歳出は53兆5千億円、いずれも過去最大。税収が約37兆円、国債の新規発行額も44兆3千億円に膨れ上がりました。

国土交通省や農林水産省などの公共事業費関係費の総額は、1978年度以来32年ぶりとなる低水準まで減額され、18.3%減の5兆7731億円。道路は原則として新規事業はなく、事業箇所数も2割減、まさに建設業界にとって厳しさを増す寅年になりました。

財源不足という現実を見れば以前のような公共投資は期待出来ないでしょう。しかし鳩山政権が行っている歳出改革に頼るだけでは限界があります。アンケートで「生活と雇用を支える安心安全な社会」のためには、恒常的な税源が必要であると多くの国民が答えています。選挙のための言動があまりにも多すぎます。消費税増税を4年間はやらない与党合意に縛られることなく、経済と企業を活かすために、税制の抜本改革をやるべきです。経済不況の中、大事なものは都会だけでなく、田舎の経済が、中小企業が自立回復できる日本のために、政府が決断を下す時です。

「虎穴に入らずんば虎子を得ず」身の安全ばかり考えていたのでは目的を達成することは出来ません。もちろん我々も地方も云うべきことは云う、やるべきことはやる。権利を主張するのではなく、責務を全うしなければなりません。

現政権に望むこと、公約より大局を、目先の対策ではなく中長期の成長戦略を示して欲しい。社会基盤整備のグランドデザインを明確にして欲しい。

農業、林業、観光、介護、環境、福祉、教育等々。転業、転職、兼業のためには中小建設業を支援すると云っています。困難な道なれど、さまざまな分野で中小企業だからこそ、やれることもあるはず。また、地方の果たすべき役割もあるはず。

皆さん、時代は変わったのです。

「自立」こそ、生き残る道なし。「創意・工夫」そして「決断」危険を恐れず、前へ進んで行こうではありませんか。

ありがとうございました。





新年のご挨拶

国土交通省中国地方整備局
出雲河川事務所

所長 林 正道

新年あけましておめでとうございます。(社)鳥根県建設業協会出雲支部の皆様方におかれましても穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、皆様には平素より出雲河川事務所の治水や河川環境整備の取り組みへのご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

出雲河川事務所の担当している斐伊川神戸川の流域は、農業をはじめ川からの恵みを受けて発展してきた反面、これまで幾度となく水害に苦しんできた地域です。

この斐伊川神戸川を治水、利水、環境の面から、長期的にどのような川にしていくのか、昨年3月に斐伊川水系河川整備基本方針が改定されました。そして、その段階的な実現に向け、今後の当面20～30年間における整備の目標、具体の整備内容などを定める斐伊川水系河川整備計画について、有識者及び流域の各市町長から構成される懇談会や、流域にお住まいの皆様の声の伺いながら、策定しております。

斐伊川中流において整備を推進しております斐伊川放水路につきましては、既に新たな河道の形が見えてきており、本年は、昨年着工した分流堰の本体工事など、平成20年代前半の放水路完成に向け、事業を推進して参ります。

宍道湖と中海を結ぶ大橋川の改修につきましても、早期に事業着手できるよう事務所一丸となって取り組んで参ります。

斐伊川水系の最下流部に当たる中海沿岸を洪水・高潮から守る湖岸堤の整備につきましては、近年の高潮による被害の状況を踏まえ、整備の緊急性の高い箇所から順次着工しております。

さらには、ラムサール条約に登録された宍道湖・中海の水質改善や自然環境の保全・創出を行う環境整備事業、河川管理施設の機能を十分発揮できるよう老朽化した施設の更新など、後世に残る良質な社会資本整備を通じて斐伊川流域の地域づくりに貢献するため、関係者の皆様と協力して取り組んで参ります。

最後になりましたが、本年における(社)鳥根県建設業協会出雲支部の皆様方の工事安全とますますのご発展を祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

国土交通省中国地方整備局
斐伊川・神戸川総合開発工事事務所

所長 中川 哲志

謹んで新年のお慶びを申し上げます。(社)鳥根県建設業協会出雲支部の皆様方におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、当事務所が建設事業を担当している志津見ダム・尾原ダムの推進に対しまして、多大なる御理解と御協力をたまり、厚く御礼を申し上げます。

斐伊川および神戸川の抜本的な治水対策(3点セットと呼ばれる治水対策)の1つである、神戸川上流部の志津見ダムと斐伊川上流部の尾原ダムは、鳥根県東部地域の安全・安心を確保し、更なる発展に導くために必要不可欠な社会資本であり、昭和44年(1969年)に発表された鳥根県による「斐伊川・神戸川の治水および関係地域の開発に関する基本構想」に計画が盛り込まれて以来、約40年が経過し、平成22年度は基本計画で定められた工期の最終年度を迎えることとなります。

志津見ダムは、昭和61年4月に建設事業に着手し、用地補償や付替え道路等の補償工事を進めた後、平成18年4月にダム本体コンクリート打設を開始し、平成21年3月には約41.6万 m^3 の打設を完了しました。平成21年10月から試験湛水を開始しており、平年並の降水量であれば平成22年の春先には満々と水を湛えたダム湖が出現し、洪水期までに試験湛水を終了する予定です。平成22年の洪水期からは洪水調節機能を発揮することとなり、鳥根県が実施された神戸川改修事業と合わせ、平成18年7月に当地で甚大に被害を発生した豪雨に対しても、地域の安全・安心を確保することになります。

尾原ダムは、平成3年4月に建設事業に着手し、用地補償や付替え道路等の補償工事を進めた後、平成19年9月から約66万 m^3 のダム本体コンクリート打設を開始し、平成21年12月末で約9割近い進捗となっており、平成22年春先の打設完了に向けて工事を行って参ります。そして、平成22年の秋頃には試験湛水を開始する予定としています。

平成19年5月に鎮定された志津見ダムの定礎石には「命の水 命のダム」「願い・豊かな暮らし」という言葉が、平成20年3月に鎮定された尾原ダムの定礎石には「命育むオロチの泉」「水の恵みすべての人へ」という言葉が刻まれており、ダム事業のためにこの地を跡にされた地権者をはじめとする上流域の皆様方の想いが込められています。ダムの恩恵を受ける下流域に暮らす者として、上流域の皆様方の想いに応えていくためにも、ダムの試験湛水の開始を契機として、上流域と下流域の結びつきを強め、交流の促進と水源地域の活性化への取り組みが図られ、安全で安心な地域づくりの礎となることを願うものであります。

最後になりますが、本年におきましても会員皆様方の工事安全と益々のご活躍に対し祈念を申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

出雲県土整備事務所
所長 佐野卓司

新年あけましておめでとうございます。出雲支部会員の皆様方にはすがすがしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、皆様方には平素より出雲県土整備事務所が取り組んでおります公共施設の整備や維持管理事業に対しまして、格別のご理解とご協力をいただいておりますことを心から御礼申し上げます。

さて、昨年8月末の衆議院選挙によって政権が交代し、「コンクリートから人へ」と政策方針が転換されたため、来年度の公共事業予算については、具体的な数字が見えてこない状況ながら、今年度に比べかなり削減されるという報道もされているほか、経済状況の悪化も加わって、公共事業を取り巻く環境は一段と厳しさを増すものと推察されます。しかしながら、こういった状況の中にあっても、道路や河川など県民生活に必要な社会資本の整備が依然として立ち遅れている島根県においては、積極的に整備を推進していく必要があると考えております。

昨年11月28日に山陰自動車道の斐川IC～出雲IC間が開通したことによって、高速交通ネットワークに組み入れられた当地域は、これを足がかりに今後大きく発展するものと思われまますが、さらなる発展を期するためには県西部地域も組み入れた高速交通ネットワークの早期形成が必要不可欠であると考えており、当事務所でも引き続き高速交通ネットワーク充実化のために努力して参ります。

また、本年もこれまでと同様に当該事業の優先度や重要度などのほかに、地域の方々からのご意見やご提案も考慮して効率的で有効性のある事業執行に努め、当事務所が所管している土木・建築施設や農林施設の早期整備を図ることによって、一日も早い安全で安心な県土づくりや民生安定の向上を目指して参りますので、引き続き関係の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、(社)島根県建設業協会出雲支部の益々のご発展と、会員の皆様方の益々のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

ホームページが変わりました!!

昨年10月よりトピックスで出雲支部が開催した事業を載せ、そこをクリックすると事業内容や写真が見れます。そして支部関係事業のスケジュールを新たに追加しました。また、今まで会員専用のサイトは、パスワードを入力しないとアクセスできませんでしたが、今回から会員紹介として誰でも見るできるようになり、ホームページがある会社も閲覧できますので、是非ご覧下さい。

社団法人 島根県建設業協会出雲支部ホームページ (//www.shimakenkyo.or.jp/izumo/)



リニューアルしました!!

Welcome to Associated General Constructors of Shimane, Izumo Dept.!

ごあいさつ

私たち(社)島根県建設業協会出雲支部は、建設業を技術的、経済的及び社会的に向上させ、公共の福祉を増進することを目的に活動している団体です。

当ホームページにおいて、会員が地域社会の一員として、河川・道路等の環境保全・美化活動の協力など、社会貢献活動に積極的に取り組んでいる状況を掲載し、協会の概要と事業活動について少しでも多くの方にご理解いただければと願っております。

TOPICS

出雲支部 事業内容 **NEW!**

建災防出雲分会で夜間パトロールを実施しました。

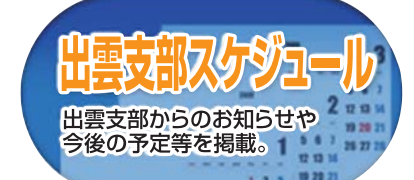
2009.12.16



しっかり固定してあります



施錠をお願い!



出雲支部からのお知らせや今後の予定等を掲載。

↓ クリックすると

2010年1月スケジュール

- 1(金) 元日
- 5(火) 仕事始め
- 11(月) 成人の日
- 18(月) 10:00 新年互礼会、祈願祭
- 25(月) 13:30 現場代理人研修会
- 26(火) 14:00 新分野進出セミナー

| [新着情報](#) | [協会の概要](#) | [青年部のご案内](#) | [会報のご案内](#) | [地域づくり](#) | [会員紹介](#) | [リンク](#) |

社団法人 島根県建設業協会出雲支部
〒693-0028 島根県出雲市塩冶善行町2-2
TEL: 0853-21-1187 FAX: 0853-21-2454

Copyright (C) Associated General Constructors of Shimane, Izumo Dept., All Rights Reserved.
画像及び文章の無断転載・無断引用・販売等は固くお断りします。
E-mail: izumoken@orange.ocn.ne.jp

Copyright © 2000-2009, Associated General Constructors of Shimane, Izumo Dept.